



浜松ホトニクス株式会社

2025年9月期 第1四半期決算説明会

2025年2月6日

■FY25 Q1実績

- 前年は高い受注残でスタートしたため減収減益も、計画の想定内で着地
- Q1を通して低調な市況が継続

■FY25 Q2以降の見通し

- 業界毎の状況に濃淡はあるものの、総じて計画通りであり、通期業績予想に変更なし

■自社株買いの状況

- 11百万株（発行済株式総数に対する割合：3.56%）を取得済
※2025年4月30日に消却予定

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 2

まずは本日のポイントについて申し上げます。説明したい内容は3点でございます。1つ目は、2025年度第1クォーターの実績です。減収減益で着地しました。現時点においては、依然低調な市況が継続しているという認識です。また、前年度は第1クォーターが非常に高い受注残でスタートしたこともあり、前年同時期比においては減収減益になりました。ただし、期初に想定した計画に対しては想定内の着地でございます。

2つ目は、第2クォーター以降の見通しです。低調な市況が継続していると申し上げましたが、また業界ごとの状況に濃淡はありますが、全体感としては増加の兆しが見られています。今後は多少でこぼこしながら増加してくると思います。今後の業績予想については公表値としております。

3点目です。自社株買いの状況についてご報告いたします。昨年12月9日にリリースさせていただきましたが、総額200億円、1,100万株の自社株買いが完了しております。2025年4月30日に消却予定でございます。

売上高および営業利益は前年同期比減収、減益

単位：億円

	FY24	FY25	前年同期比			
	Q1	Q1	増減	%		
売上高	535	505	-29	-5.5		
売上総利益 (%)	282 (52.9 %)	244 (48.3 %)	-38	-13.7		
営業利益 (%)	114 (21.5 %)	42 (8.5 %)	-71	-62.7		
当期純利益	89	41	-47	-53.2		
為替	ドル (円)	147.86	152.37	為替感応度/年 (1円変動時)	営業利益における 為替影響額	
	ユーロ (円)	159.06	162.58			1ドル 3億円
	元 (円)	19.94	20.85			1ユーロ 1億円
						1人民元 10億円
6億円						

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 5

第1クォーターの状況です。中央の網掛けの部分をご覧ください。先ほど申し上げましたとおりですが、売上高は505億円、売上総利益は244億円、営業利益は42億円、当期利益は41億円で着地しました。

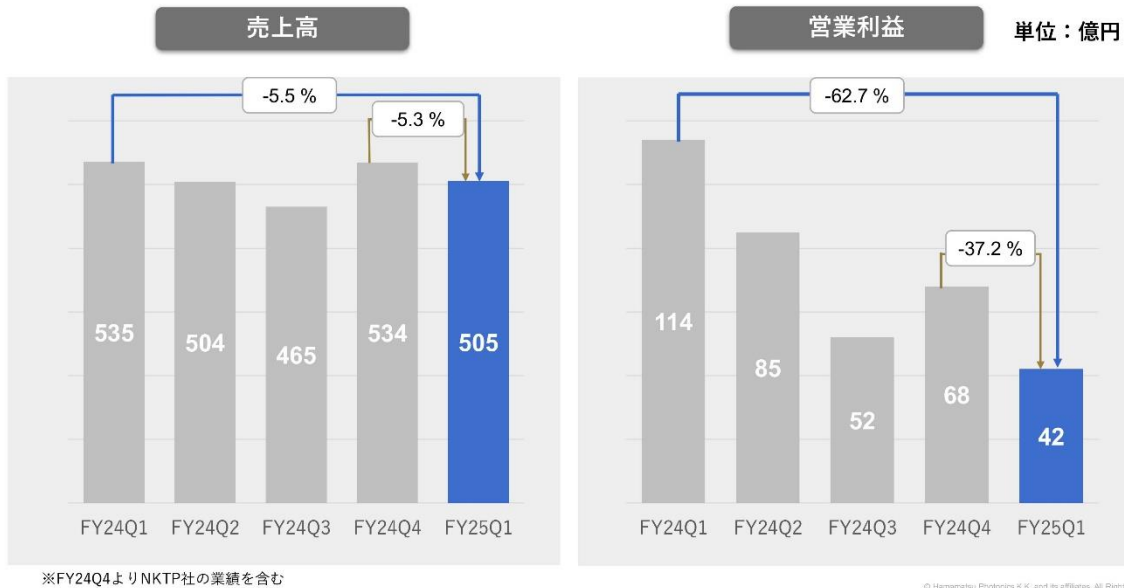
前年は高い受注残でスタートしたことにより、前年対比でいきますとマイナス29億円、マイナス5.5%の減収となりました。売上総利益ですが、減収と固定費の増加によりマイナス38億円、マイナス13.7%で、減益となりました。営業利益ですけれども、販管費の増加、研究開発費の増加により、マイナス71億円、マイナス62.7%と大幅な減益となりました。なお、為替の影響は営業利益でプラス6億円でございます。

買収したNKTPの実績をここで申し上げておきます。売上高で33億円、売上総利益で14億円、営業利益でマイナス14億円となっています。のれんの償却8億円を含んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

四半期推移

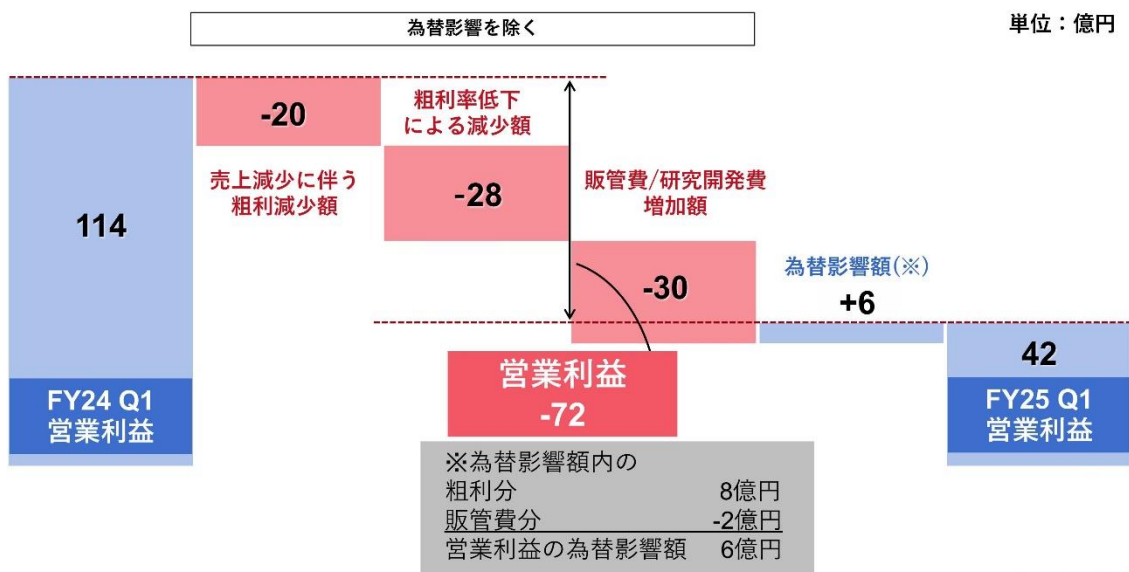


© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 6

四半期ごとの売上高と営業利益の推移です。まず売上高ですけれども、第1クォーターは第4クォーターの比較においては減収になりました。これは例年どおりでございます。ただ、トレンドとしましては下げ止まってきたかなという認識でございます。

右側、営業利益です。これは固定費の増加もあり、額・率共に減少しました。

利益変動要因 FY24Q1-FY25Q1



© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 7

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

営業利益の変動要因です。マイナス 72 億円の内訳ですけれども、左側から売上減少に伴う粗利の減少額がマイナス 20 億円。粗利率による減少額、これは固定費の増加によるものですが、マイナス 28 億円。販管費/研究開発費の増加がマイナス 30 億円。あと、先ほど申し上げましたが、為替の影響がプラス 6 億円。これでマイナス 72 億円の着地となりました。

業界別売上高実績 - 概要

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

医用・ バイオ機器	放射線検査	欧米金利高、中国景気低迷によりX線CT向けや歯科診断装置向けの売上が減少
	半導体製造	生成AI関連の好調な設備投資に伴い、ウエハを切断するステルスダイシングエンジンの売上が増加
産業用機器	非破壊検査	EV市場の低迷に伴い、車載用バッテリーや基板検査向けのマイクロフォーカスX線源の売上が減少
	分析機器	HPLC 製薬およびバイオテクノロジー関連を中心とした市況回復により売上が増加

単位：億円

	FY24 Q1	FY25 Q1	前年同期比	
			増減	%
医用・バイオ機器	171	144	-26	-15.5 %
産業用機器	189	173	-16	-8.8 %
分析機器	53	64	11	20.6 %
学術研究	46	49	2	6.1 %
計測機器	27	24	-3	-12.6 %
輸送機器	12	12	-0.8	-6.4 %

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved.

8

業界ごとの状況をご説明いたします。医用・バイオ機器はマイナス 26 億円となりました。背景としましては、欧米の金利高、中国の景気低迷により、X線CTや歯科用のセンサの売上が減少しました。

産業用機器もマイナス 16 億円の減収となりました。まず半導体製造装置分野ですけれども、生成AI関連の好調な設備に伴い、ウエハをカットするステルスダイシングの売上が増加いたしました。一方、非破壊検査分野ですけれども、EV市場の低迷により、車載用バッテリーや、基板検査向けのマイクロフォーカスX線源の売上が減少しました。

分析機器は、製薬およびバイオテクノロジー関連を中心とした市況の回復により売上が増加しまして、プラス 11 億円で着地いたしました。

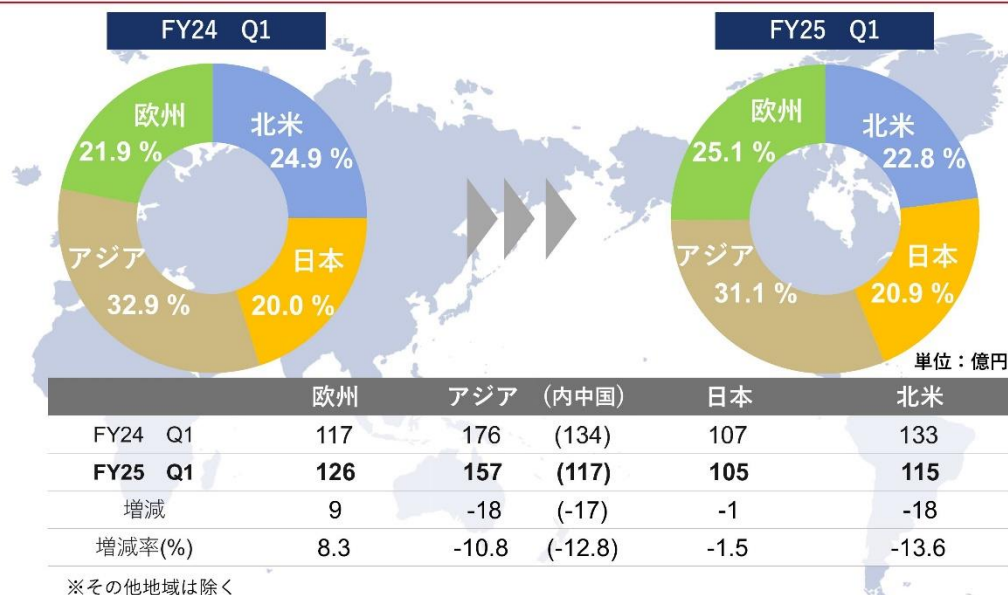
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

地域別売上高

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS



9

地域別でございます。トピックスとしましては、NKTPの買収に伴いまして、欧州の割合が、前期の21.9%から25.1%に増加いたしました。アジアは特に中国ですけれども、ここは2桁減となりました。中国は中国市況の低迷、北米は在庫が高止まりしている影響が大きく出ております。ここで、北米・中国が2桁減となっております。

貸借対照表

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

	FY24 Q4	FY25 Q1	前期末比
現金及び預金	970	1,016	46
棚卸資産	805	849	43
固定資産	1,956	2,016	59
資産合計	4,346	4,485	138
有利子負債	369	576	207
負債合計	1,016	1,316	300
純資産合計	3,330	3,168	-161
負債及び純資産の合計	4,346	4,485	138
自己資本比率	76.2 %	70.3 %	-5.9P

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved.

10

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

5

バランスシートです。まず資産の合計が138億円増加しました。内訳は、現預金がプラス46億円、棚卸資産がプラス43億円、固定資産がプラス59億円となりました。

現預金の増加は、今後借入金の返済に当たる部分ですけれども、補助金の受け入れがあった分、あと1月の設備の支手決済がありまして46億円となりました。フローの資金の一時的な増加でございます。

在庫は43億円増えました。期ずれした大口案件の製品が在庫で滞留したこと、あと製造ラインの見直しをしたことにより在庫の積み増しをしました。あと為替の影響もありました。一番大きいのは、11月に買収した企業の在庫が増えたということでございます。一時的な増加だと考えております。

トピックスとしましては、純資産が161億減少しました。これは前期に行いました200億円の自社株買い。これを、有利子負債で200億円調達したということでございます。自社株買いをしたことによりまして、自己資本比率は76.2%から70.3%に減りました。財務内容は依然として健全性を維持しているものと考えております。

FY25 Q2以降の見通し

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

業界ごとに需要の濃淡はあるものの、総じて期初想定通りの見通し

業界	用途	Q2以降の見通し
医用・ バイオ機器	放射線検査	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍と比較し、X線CTの需要は低位横ばいを予測 ・欧米は高金利にて歯科検査装置の需要が弱い ・中国では不況および他センサメーカーとの厳しい競合環境が継続
	産業用機器	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体検査装置用センサ・光源の需要に穏やかな増加 ・半導体故障解析装置は好調に推移
	非破壊検査	<ul style="list-style-type: none"> ・車載用バッテリーや基板検査向けのマイクロフォーカスX線源の需要に好転が見られる
分析機器	HPLC	<ul style="list-style-type: none"> ・市場需要の高まりや在庫状況改善から需要拡大を見込む

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 12

第2クォーター以降の見通しを説明いたします。業界ごとの状況を説明します。まず当社の主力の医用・バイオ機器ですけれども、コロナ禍と比較しまして、X線CTの需要は低位横ばいを予想しております。あと、欧米の金利高、歯科用検査の需要は引き続き弱い。中国では不況、中国の他センサメーカーとの厳しい競争環境は継続しています。これが医用・バイオの分野です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

一方、産業用機器ですけれども、半導体製造装置に関しましては、半導体検査装置用のセンサ・光源の需要に緩やかな増加が見られます。半導体故障解析装置は好調に推移しております。非破壊検査はEV用のバッテリー検査のマイクロフォーカスX線源の需要に、第2クォーター以降好転が見られます。

分析用機器は第1クォーターから続きまして、市場需要の高まり、あと在庫状況の改善から需要の拡大を見越しております。医用・バイオ分野は少し弱いかと思っていますが、産業用機器、分析器は第2クォーター以降の上昇を期待しております。

通期業績予想

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

通期業績予想に変更なし

単位：億円

	FY24	FY25	前期比	
			増減額	%
売上高	2,039	2,189	150	7.3
売上総利益 (%)	1,038 (50.9 %)	1,099 (50.2 %)	61	5.8
営業利益 (%)	321 (15.7 %)	241 (11.0 %)	-80	-25.0
当期純利益	251	180	-71	-28.2
	ドル (円)	150.54	145.00	
為替	ユーロ (円)	163.16	155.00	
	元 (円)	20.62	20.00	

© Hamamatsu Photonics K.K. and its affiliates. All Rights Reserved. 13

このような状況を踏まえて、11月に公表しました期初計画には変更はありません。

1クォーターの実績、特に利益面については弱含みの結果となりましたが、改善の兆しが出つつあります。冒頭申し上げましたけれども、今後でこぼこはあると思いますが、緩やかな売上の上昇を見込んでおります。その結果として、期初に立てた計画は十分達成できると考えております。

私の説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

質疑応答

質問	回答
Q1. 第1四半期において売上の一時的な増減要因は？	A1. 半導体故障解析装置で検収の期ずれがある。
Q2. 非破壊検査に需要好転が見えるとのことだが、EV関連は厳しいのではないかと？	A2. 非破壊検査はEVの生産よりは電池工場の投資と関連性がある。電池メーカーの新規工場建設の話も少しずつでている。
Q3. 上期計画達成に向けて第2四半期のハードルは高いのではないかと？	A3. 半導体故障解析装置の期ずれなども考慮すれば、現時点では計画の範囲内で推移している。
Q4. 在庫削減の状況は？	A4. 安全在庫の水準見直し、材料仕入れの見直しなど在庫削減に着手している。
Q5. 売上に季節性はあるのか？	A5. 通常、第2四半期、第4四半期の売上が増加する傾向にある。
Q6. BAE Imagingの買収金額や売上は？	A6. BAE ImagingはFairchild Imagingに社名を変更。買収金額は非開示、今期の売上規模は30億円弱、利益は5億円程度の赤字の見込み。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com